

2013年9月4日

報道各位

住友金属鉱山株式会社

フィリピン・タガニートプロジェクトのオープニングセレモニーの実施について

住友金属鉱山株式会社（本社：東京都港区、社長：中里佳明）は、三井物産株式会社（本社：東京都千代田区、以下「三井物産」）およびニッケル・アジア・コーポレーション（本社：フィリピン共和国、以下「NAC」）と共同でフィリピン・ミンダナオ島タガニート地区においてニッケル製錬プロジェクト（タガニートプロジェクト）を進めております。2013年6月にプラントが完成し、本日、現地にてフィリピン政府関係者、地方政府関係者、建設工事関係者等をお招きしてオープニングセレモニーを開催しました。

当社は、2005年に子会社のコーラルベイニッケル社（フィリピン・パラワン島）において低品位ニッケル酸化鉱からニッケルを効率的に回収するHPAL技術（High Pressure Acid Leach：高圧硫酸浸出法）の商業化に世界で初めて成功しました。この実績を背景に当社は、2009年9月にフィリピン・ミンダナオ島タガニート地区において当社にとって2拠点目となるHPAL技術を用いたニッケル製錬プラントを建設することを決定し、工事を進めてまいりました。本年6月にプラントが完成し、以降、設備能力の確認、生産品の品質確認等の作業を順次行っており、本年の第4四半期から本格的な商業生産を開始する予定です。

（本件に関するお問い合わせ先）

住友金属鉱山株式会社

広報IR部 青野祥紀

TEL：03-3436-7705

FAX：03-3434-2215

以上

（参考資料）

タガニートプロジェクトの概要について

1) 現地会社の概要

- ①名称 タガニート HPAL ニッケル社
- ②資本関係 住友金属鉱山 62.5%、NAC22.5%、三井物産 15.0%
- ③所在地 フィリピン国スリガオデルノルテ州タガニート地区
- ④従業員数 約450名

2) 生産品および生産量

HPAL 技術によりニッケル製錬の中間製品であるニッケル・コバルト混合硫化物（Nickel/Cobalt Mixed Sulfide）をニッケル量換算で約30,000トン/年、コバルト量で約2,600トン/年生産する計画である。

3) 生産品の用途

生産されるニッケル・コバルト混合硫化物は、全量当社のニッケル工場（愛媛県新居浜市）において、電気ニッケルおよび電気コバルト生産の原料として使用する。

4) 原料

NACの子会社であるタガニートマイニング社が操業するタガニート鉱山で採掘したニッケル酸化鉱のうち、低品位のラテライト鉱を使用する。

(タガニートプロジェクト プラントの全景)

